

水彩画を描く

広島県 大竹 保行

絵を描くようになったきっかけをよく聞かれます。5年前の55歳の時、行きつけのデイサービスで、「絵をやりませんか？」と誘われました。絵が特に好きだとか、書いてみようと思ったことは一度もなかったのですが、なぜか「やろう！」と思ったのです。同じレベルの頸損者で口に筆をくわえて絵を描いている仲間を数名知っていますが、「よくやるなあ〜」と、只々、感心しているだけです。た

デッサンは、いつでも書けるように窓際の固定テーブルで、写真を見ながらA4のスケッチブックに書きます。菜箸にエンピツを取り付け、口元はダイソーのサインペンのキャップを付けました。消しゴムとハケも同様です。彩色は、移動できるようにオーバーテーブルで描きます。絵の具は固形透明水彩絵の具、筆はエンピツと同様にします。花形パレットや筆洗など必要な道具は全てテーブル内に収めます。画用紙にデッサンしたものを水彩紙にコピーしてから色付けをします。デッサンで書いたり消したりするので画用紙の表面が荒れて彩色が上手く載らないのです。ヘルパーさんに手伝ってもらう主な事は、下絵・写真のセットと取り外し、筆洗の水替え、パレットの清掃、テーブルの移動コピーなどです。描き方は独学です。インターネットで勉強しました。描いたものをデイサービス、の先生に見せ、意見を伺います。1ヶ月に4〜6枚程度描き、すでに300枚は越えていると思います。絵はスキャナにとってデータとして保存しています。原画は欲しいという人にあげます



デッサン



彩色



作風・厳島神社の大鳥居



作風・虎